



その他委員会報告

◎次年度幹事（小川 誠君）

＝23-24 年度第3 回理事会&第2 回クラブアッセンブリー＝
日にち； 5 月 23 日（火）
※来月にご案内を配布

◎同好会ゴルフ部（安田一生ゴルフ部幹事）

明日 4 月 26 日（水）にゴルフを予定していましたが、
荒天の予報の為、誠に残念ではございますが中止とさせて
いただきます。宜しくお願いいたします。



法 話 （伊藤 正久 職業奉仕委員長）

本日は早朝例会にお集まりいただきありがとうございます。
います。

成田山 法教部法務課長の大藪照心様にご法話『「戦
い」について』をお話いただきます。恐らく皆さんも
日々いろいろな戦いをされているかと思います。

本日は大藪様にどのような「戦い」について、お話
いただけるか楽しみにしています。それでは大藪様、
宜しくお願い致します。

☆成田山名古屋別院 大聖寺

法教部 法務課長 大藪 照心 様
『「戦い」について』



犬山ロータリークラブの皆様、お早うございます。
只今ご紹介にあずかりました当別院の大藪照心と申し
ます。本日は早朝からのご参集、お護摩参拝の後、誠
にお疲れと存じますが、今しばらく私のお話にお付き
合い頂ければ幸いです。よろしくお願いを致
します。

本日は「戦い」についてお話をさせていただきます。

みなさん覚えておいででしょうか、昨年末の清水寺
の世相を反映する漢字一文字も「戦」でした。3 年半
に及ぶコロナウイルスとの戦いは緩和されつつあると
はいえ、いまだに続いておりますし、昨年 2 月からの
ロシアによるウクライナ侵攻も長期戦の様相を呈して
おります。

しかし、最近の「戦い」と言えば、記憶にも新しい
先月行われた WBC2023。14 年ぶりの世界一奪還。本
当に素晴らしかったですね。

今月 21 日に甲子園の野球歴史館で行われた優勝ト
ロフィーの展示には、あまりの長蛇の列に 1 人 10 秒

の観賞時間の制限が行われたそうですが、いまだ熱は
冷めやらずといったところでしょうか。

この WBC。1 次ラウンドは危なげなく全勝。大谷選
手はオーストラリア戦で自分の看板に大アーチを直撃
させ、準々決勝のイタリア戦で先発し雄叫びの力投な
どチームを引っ張ります。

そしてメキシコとの準決勝。先発の佐々木朗希投手
は 4 回まで素晴らしいピッチング。しかし 4 回に痛恨
の 3 ランを打たれ、ベンチでのうなだれ具合は見てい
て痛々しいほど。しかしその後 7 回に吉田選手が同点
3 ラン。この時ベンチを飛び出し帽子を叩きつけ感情
を爆発させる佐々木選手。すべての選手が助け合い活
躍する中、4 番の村上選手だけが不振で、イタリア
戦から 4 番を外されてしまいます。きっと打ってくれ
ると期待の中、迎えた 1 点を追う 9 回裏、大谷選手が
初球打って右中間、ヘルメットを払い飛ばして力走で
の二塁、塁上でベンチに向かって俺に続けとばかりに
大声で鼓舞する大谷選手。大一番での村上選手。代打
やバントの可能性もあった中、栗山監督から「ムネ、
お前に任せた」の伝令。ここで一発サヨナラタイムリ
ー。代走の周東選手が大谷選手に追いつかんばかりの
渾身の力走でホームにスライディング。全員がベンチ
を飛び出し、まるで優勝したかのような歓喜・・・

そして翌日。アメリカとの決勝。ロッカールームで
の声出しで大谷選手が「憧れるのをやめましょう。憧
れたら超えることはできません」とアメリカを称えな
がらも仲間を鼓舞。試合途中、村上選手が完全復活。
同点ホームランでの確信歩き。8 回にはダルビッシュ
投手が投げ、9 回日本 1 点リードで奇跡の投手リレー
「泥だらけのストッパー」大谷選手。ゲッツーにてツ
ーアウト後フルカウント。打席にはアメリカを代表す
る強打者エンゼルス（エンゼルスの盟友）トラウト。まさに漫画を超
えたこの瞬間。大谷選手のはなったスライダー。空を
切るトラウトのバット。グローブとキャップを投げ仲
間と抱き合う大谷選手。日本人であることを誇りに思
う幸福な時間。本当に素晴らしかった・・・

すみません。これでは法話というより WBC の実況
ですね。

大谷選手を初め、素晴らしきサムライ達。でも今大
会、私が一番感銘を受けたのは栗山監督でした。ダル
ビッシュ選手や大谷選手を初め、栗山監督だからこそ
集まった選手達。そしてヌートバー選手の起用。どん
なに選手が不振でも、怪我を負っても信じて起用し続
ける忍耐強さ。自分は極力前に出ず、選手ファースト
に徹するその姿勢。星野監督のような「闘将」でも、
野村監督のような「知将」でもなく、選手やチームを
信じ抜く「信将」であると私は思うのであります。

ちなみに日本代表が今大会を 7 戦全勝で制したのだ
ですが、チーム結成以来、唯一の黒星となったのは中日
との壮行試合のみであったことは中日ファンにとっては
優越の事実です。

実はこんなに熱く WBC を語っている私ですが、小
学校時代、1 番に高木選手、4 番にマーチン選手が在籍
していた頃は中日ドラゴンズの大ファンでした。中日
球場（小学生の途中からナゴヤ球場と名前が変わって

しまったのですが)にも何度か観戦しに行きました。しかし、中学1年から新勝寺に修行のために入寺して以来、すっかり野球から関心を失ってしまっていたのです。でも、サッカーやラグビーのワールドカップもそうですが、国を代表したチーム戦は「にわかファン」だとしてもほんとに盛り上がりますし感動します。

また、他のスポーツでは、バスケット NBA レイカーズで現在大活躍の八村塁選手。個人競技ではテニスの世界ランキング1位の大坂なおみ選手。ボクシング4団体統一王者の井上尚弥選手など、私が学生の頃は自分が生きている間に日本人がはなし得ることはないだろうと思っていた高みで戦う選手達。本当に誇らしく素晴らしいですね。

戦いはスポーツの世界だけではなく、まさに盤上の戦い。史上最年少で6冠となった将棋の藤井聡太さんも、羽生善治さんとの戦いが記憶に新しいところです。

また、先月28日に死去した世界的なミュージシャンの坂本龍一さんも、脱原発や憲法9条改正反対を掲げるなど政治的な意見表明も臆せず行っていて、忌野清志郎さんと並ぶ、日本では希有な戦うミュージシャンでした。

2001年ニューヨークで9.11同時多発テロに遭遇し、後のイラク戦争では開戦の反対を訴え、六ヶ所村の核燃料再処理工場の放射能汚染を訴えるプロジェクト、東日本大震災の被災地支援、沖縄の基地問題に取り組む一方で、環境問題に強い関心を持ち、中津川市や白川村での森林整備にも取り組んでいました。

私はビートルズ初来日の年、1966年に産まれた、いわゆる「ルーツ66」世代なのですが、今年1月に死去した高橋幸宏さんや先月お亡くなりになった坂本龍一さんそしてリーダーの細野晴臣さんが結成した「イエローマジックオーケストラ」は中学生の私にはまさにエポックメイキングな存在でした。当時は「YMO」をメタルテープに録音し、発売されたばかりの初代ウォークマンで聴きつつ街を歩くのが時代の最先端、まさに「ナウ」だったのです。しかし当時寮生活をしていた私にはウォークマンは望むべくもなく、小さなトランジスタラジオで文化放送の「スネークマンショー」を布団の中でイヤホンしながら隠れて聴いていたのを思い出します。

北野武さんが「戦場のメリークリスマスは俺だけになってしまいました」と坂本さんの死を悼みました。大島渚監督、デビッド・ボウイさん、そして坂本龍一さんがお亡くなりになり、もう自分しかいなくなってしまった寂しさからの追悼の言葉でした。この「戦メリ」で坂本さんが初めて映画音楽を手がけ、メインテーマは今なお多くの人を魅了する坂本さんの代表曲になっています。後にこれがベルナルド・ベルトリッチ監督の目に留まり、映画「ラストエンペラー」に出演。音楽も担当し、アメリカのアカデミー賞で日本人初となる作曲賞を受賞する快挙を達成しています。(私は国民栄誉賞にも値する方かと思っています)

このように人は何かと戦うことで成長し、時には人々を勇気づけ感動を与えてきました。

しかし一方で、昨年2月からのロシアによるウクラ

イナ侵攻もいまだに続いており、アフリカのスーダンでは新たな内戦が始まってしまい、多くの人命を失っております。

人間の「戦う」という行為がこんなにも違う結果を生み出してしまっているのです。

仏教では人は亡くなると次の世界へと生まれ変わる「六道輪廻」という思想があります。地獄・餓鬼・畜生・修羅・人・天。「にん」とは人の世のことですが、それ以外の世界はまるで別の世界のようにも思えます。しかし人の行いによって、この世においてもそれらの世界は出現します。東日本大震災での福島原発の暴走は、人が住めない故郷を生み出してしまいました。これはまさに「地獄」です。また、ウクライナの戦争やスーダンの内戦などは、常に争い殺し合う「修羅道」を生み出しています。もし飢饉に陥っている国があればそれは「餓鬼道」でしょう。人が理性を無くし、本能のままに犯罪に走るようなことがあれば、その人は人でありながら「畜生道」に落ちてしまっていると言えます。そういった世界は私達の身近な所でも容易に出現します。家庭内で夫婦が毎日のように言い争っているとすれば、その家の子にとっては家庭が「修羅道」です。また、育児放棄された子供や、寝たきりの孤独なお年寄りが餓死をしてしまうといった事件がありますが、これこそ人が作り出した「餓鬼道」です。学校で、みんなが楽しそうにしている中、自分だけが仲間はずれにされたり、いじめられたりしていたらその子にとって、学校は「地獄」でしょう。そして人類は、地球上の生き物を何回も絶滅させるだけの兵器も作り出しました。だれかがボタンを押せばこの世界を焼き尽くしてしまう。「地獄」どころか、すべてを無にしてしまう。本当に人は恐ろしい存在でもあります。しかし、人はこの世を「天界」や、さらには仏の世界「浄土」のようにより良い世界にしていける可能性も持っています。

私たちがこの世に生を受けたとき、純粋な光り輝く仏さまの心で産まれてきます。それが人としてこの世界で生きていく中で、色々な「しがらみ」により「仏心」が手垢で曇ってしまいます。自身の心の中心が仏心であることを自覚して、磨き直して仏さまの輝きを取り戻していく。それが仏道です。仏教には色々な宗派があり、それぞれがそれぞれの方法で、仏に成る、または仏に近づくよう切磋しております。我々真言宗では、現世を大日如来の世界「密厳国土」と考えます。そして皆が中心の大日如来を目指して仏の智慧により行動することで「密厳国土」を「密厳浄土」とすることを目指します。

「戦う」ということも、人を助け、人に感銘を与えられる「戦い」と、人を傷つけ、時には殺めてしまう「戦い」とでは、同じ「戦い」でもまったく違う結果となります。

皆様もなにか事を成すときには、ご自分の心の奥の仏さまの心で話し、見返りを求めず行動することにより、自分の周りから仏さまの世界、より良い世界を広げていただきたいと存じます。宜しく願いをいたします。

ちょうどお時間となりましたのでここで話を納めさせていただきます。

本日は「戦い」についてお話をさせて頂きました。

最近はずいぶんと春めいてはまいりましたが、まだまだ「三寒四温」にて体調を崩しがちでございます。ロータリークラブの皆様もどうか自愛をいただければと存じます。

当山ではこれからも皆様の息災とロータリークラブの発展を祈念いたしております。

本日は最後までお話をお聞きいただき、ありがとうございました。



＝御礼の言葉＝（原 正男会長）

大藪様、お忙しい中、早朝より『「戦い」について』をお話いただき本当にありがとうございました。WBCをまた思い出しましたが、その中で人を信じるのが大事だという話でございましたが、私達企業人も従業員の長所に目が行かずに、短所が気になりだしたりしますが、これからは長所に目を配ったり、伸ばしてあげたいと思います。人を信じることを肝に銘じたいと思います。

最後になりますが、中日ドラゴンズが優勝祈願に成田山にお参りに来られましたので、更なるご加護で優勝に導いていただきたいなと思います。是非よろしく願いいたします。

本日はありがとうございました。



ご 報 告

○2023-24年度地区研修・協議会

4月9日（日）名古屋マリオットアソシアホテルにおきまして、名古屋空港 RC ホストの下、23-24 年度地区研修・協議会が開催され、稲垣次年度会長始め 21 名で出席いたしました。

